

第3回市長と話そう会

日 時：平成29年2月8日（水）

19：00～20：40

場 所：若木公民館 和室

参加者：若木まちこそ会 13名



市民の皆さまと市長が直接語り合う『市長と話そう会』第3回目は、若木保育園の保護者の皆様にて構成されている「若木まちこそ会」の皆さんとの意見交換でした。

まず、市長から市政の報告、その後、子育ての視点から移住・定住面や町づくりについて多数、活発なご意見をいただき、意見交換を行いました。

内容を抜粋して掲載しております。

《掲載にあたり、一部個人のプライバシーに関する部分などについては省略しております》

1. 会の概要

- ・子どもの数が減っていく中、住みよく愛する若木町に住み続けていくため、また発展、存続させていくため、子育てを中心として町づくりに参加できないか考えている。
- ・その他、参加者の自己紹介

2. 市長より

(1) 教育について

①教育に力を入れる理由

- ・小学校は地域の核であり、地域の火が消えないよう存続することが必要。
- ・すべての子どもたちに教育の機会と未来の可能性を
- ・失敗してしまった時やずれてしまった時でも軌道修正ができる環境をつくりたい。
- ・全国的な課題である人口減少。地域を担う人材を育てることが、地域の持続につながる。
- ・教育と地方創生は相性が良い。都会ではできない様々な体験が地方では当たり前に行える。地方の良さが活かせる今がチャンス。

②ICT教育について

- ・タブレット PC は、授業内外問わず様々な場面での活用をしており、2020年プログラミング教育必須化にむけて、Pepper（ペッパー）を使った授業も今後行う。
- ・全国公立学校情報化ランキング小学校部門で全国1位。
- ・ICTはこれからの社会で求められるもの。すべてをICTでやるわけではなく、うまく使い方をしていきたい。

③官民一体型学校武雄花まる学園の取組について

- ・花まる学習会と連携しながら毎朝の花まるタイム（音読や計算などの反復練習）、青空教

室（学年の枠を超えた問題解決学習）、なぞペー授業（思考力を養う授業）を実施中。

・一番大事なのは、地域とこどもを結び付けている取組であること。官民一体は地域一体

(2) こども図書館について

・図書館なのにすぐに本がないところが売り。

・できるだけ多くの講座等の実施を目指す。

・フードコートを設置。地産地消の食事を提供。アレルギーなどを考慮し持ち込みも可能。

(3) 移住・定住について

・プレジデント社発行の全国誌にて老後安心な町全国ランキング全国9位。

・定住特区補助金では、子育て世代や空き家活用を優遇。家財撤去補助金、空き家バンクへの登録推奨などの政策を実施中。全国での移住フェアなどでの武雄のPR。

・新たに空き地バンク制度を作り、定住特区補助金もより活用しやすいよう見直す。

・若木町は、豊かな自然、地域や人、交通面などポテンシャルが高く、伸びしろが大きい。

・人口増で一番有効なのはロコミ。まずは身近な人への定住を進めてほしい。

3. 意見交換

(会員) 宅地のための農地取得には、農地法の壁は非常に高い。土地取得できても長い期間がかかる。子育て世代にとってはこの期間は待てない。

(市長) すでに市民の皆様からいただいた意見によりどんなことができるか検討し動いている。規制緩和等できることがあれば進めたい。

(会員) 移住の決断はスピードが大事。農地と地域の両方を守るのは難しい。

(市長) 人口が減っている中で世帯数は増えている。一方空き家が増えているため、空き家バンク制度を今後進めたい。開発と農業振興のバランスを図ることが大事。

(会員) Iターンの政策だけではなく、Uターンにも力を入れてほしい。

(会員) 市役所の窓口や個別対応等にて以前不親切な対応があった。

(市長) 職員には、接している人の立場に立って対応をするよう指導している。窓口対応は、新庁舎建設に合わせて、来庁者対応時には、職員が動くように変える。

(会員) いろいろな教育政策を踏まえ、教職員へのゆとりも大事にしてほしい。

(市長) すべてを全力でやるのではなく、学校によって濃淡があることでそれぞれの特色が出てくる。先生方のやる気を削がないようにしたい

(会員) 子どもに自己肯定感、成功体験を感じることができるようなイベントができないか。

(市長) 「みんな簡単にできるけどギネスに乗る」みたいな面白い企画を提案いただきたい。市役所も協力します

(市長) 若木町の良さを活かし、どこに力を入れるのか、どんな特色のある取組ができるのか考えてほしい。皆さんの力で若木で面白いことが出来ればぜひ一緒にやりたい。